

■ 鹿児島大学病院総合臨床研修センター長に就任

医療の専門・細分化が進み、従来の臨床訓練だけでは高度な技術を習得することが難しくなってきた。鹿児島大学病院に10月開設された総合臨床研修センターは、多くの模擬訓練機器や模擬病室を備え、多様な訓練を効率よく積むことが可能。「今後の鹿児島島の医療を担う人材を育てたい」と張り切る。

センターは、研修医や専門医だけでなく、復職希望者や看護師、チーム医療に欠かせない多職種
の合同演習にも門戸を開

まつふじ ひろし
松藤 凡 さん

か お



いている。「看護師が医療技術を高めていけば、課題となつている医師不足の対策にもなる。医療の質を底上げし住民に還元したい」

専門は新生児外科と小児悪性腫瘍の治療だ。人工括約筋の研究で特許を取得したほか、排便のメカニズムに関する発表で

米国の学会賞を受賞するなどの実績がある。

聖路加国際病院(東京)で研修中、直腸がんの症例に関わり、「お尻に人工肛門を造ることができれば、不便な思いをさせずに済むのに」と思ったことがきっかけとなつている。「自分はぶきつちよな

人間」という。「でも、だからこそ安全確実を心掛けられる」と、ポジティブ志向だ。

趣味はラ・サール高時代からのバスケットボールのほか、ラグビー、山登りと幅広い。「運動するとすっきりする。アイデアも浮かぶ」。センター長としての目標を「医療を学ぶ上での魅力的な環境を整え、専門診療科の垣根を越えた研修制度を新たにすること」と掲げた。
福岡県大牟田市出身。鹿児島市上荒田町に住む58歳。(税所陸郎)